

【実施日】 平成29年11月2日（木）

【研究主題】

**体力向上に向けて主体的に取り組む子どもの育成**  
～体育と食育における環境づくり・活動プログラムづくり・授業づくりを通して～

**主題設定の理由**

子どもが生涯にわたって健康で豊かな生活を送る基盤を身につけるといった観点から、体力向上に向けて主体的に取り組む子どもの育成をめざして体育と食育における取組を実施するとともに、効果的な指導についての実践的研究を行うことは、福岡県の重点課題を解決する上で意義深いと考え、本主題を設定した。

**主題の意味**

体力向上とは、精神的体力（食と運動、健康に関する関心・意欲・態度）、知的体力（食と運動、健康に関する知識・理解・判断力）、身体的体力（食育においては、知識を実践する技能のことであり、体育においては測定可能な運動能力や技能のことである。）この3つの体力が関わり合い、高まっていくことである。

主体的に取り組むとは、子どもが「自分は、この運動でこんな動きができるようになりたい。」や「自分は、健康な生活を送るためにこんな食べ物を選びたい。また、こんな食べ方をしたい。」という必要感をもって体力に関する自分の課題を見つけ、課題解決に取り組むことである。

**副主題の意味**

**①環境づくり**

健康や体力への関心を高めることができるように学習環境を整備したり、日常的に運動できるように運動環境の整備をしたり、情報提供をしたりする。そのときに、子どもが主体的に健康や体力について考えたり、学んだことをいかして実践したりすることができるようにすることである。

**②活動プログラムづくり**

思い通りに体を動かすことができるように先進的なスポーツ医・科学などを取り入れた活動プログラムを各学年で作り、計画を立てて実施できるようにする。その際、運動に関して集めた情報を提供し、子どもが主体的に運動に関わることができるような場を設定することである。

**③授業づくり【3つのしこう】**

志向	子どもが「解決したい」という問いをもつことができるような問題提示。
思考	問いをもった子どもが解決に向けて思考することができるような手立て。
試行	学びとった価値を子どもが自覚することができるような自己決定や実践。

**成果と課題**

- 新体力テストの結果を見ると、活動プログラムで取り込んだ内容に関わる種目の記録の伸びが見られた。また、判定別推移は、C・D・E判定は減少し、A・B判定が増加した。
- 掲示物の工夫により、学んだことの定着や健康に関する興味・関心を高めることができた。何よりも子どもたちが、楽しく活動プログラムに取り組んでいる姿や道具を増やすことにより、バリエーションに富んだメニューを一緒に考えることができた。
- 単元や1時間の「3つのしこう」を位置づけ検証授業を行った結果、場の工夫において焦点化が図られ良かった。児童においても運動に関する意欲が向上した。
- 毎月、各家庭で「早寝・早起き・朝ごはん」について取り組み、保護者から児童にコメントをもらった結果、朝食摂取量が80%から94%まで上がってきている。
- 学年PTA活動やPTA講演会等を通して体力向上に向けた取組の意義について家庭へ啓発することができた。
- 主体的に休み時間に運動遊びをする高学年児童が少ない。そこで、休み時間の遊び場所の使用割りを見直し、高学年の遊ぶ場所や時間の確保をしたり、高学年の児童の興味・関心をひく遊び道具を置いたりすると、高学年の中庭での運動が増えた。今後も「ものと場の工夫」をしていきたい
- 授業時の場の工夫や道具の確保により、運動量を増やすことや技能の向上を図ることが課題である。